

令和5年度第2回高松市高齢者保健福祉・介護保険制度運営協議会会議録

高松市附属機関等の設置、運営に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和5年度第2回高松市高齢者保健福祉・介護保険制度運営協議会
開 催 日 時	令和5年8月30日（水） 午後2時～午後3時まで
開 催 場 所	高松市防災合同庁舎（危機管理センター）3階 301会議室
議 題	(1) 第8期高松市高齢者保健福祉計画の進捗状況について (2) 第9期高松市高齢者保健福祉計画策定に係る基礎調査の結果について (3) 第9期高松市高齢者保健福祉計画の骨子（案）について (4) その他
公 開 の 区 分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上 記 理 由	
出 席 委 員	長山会長、植中委員、岡下委員、喜岡委員、喜田委員、小西委員、近藤（有）委員、田中（邦）委員、田中（克）委員、恒石委員、萩池委員、前田委員、松村委員、三瀬委員、三井委員、元木委員
傍 聴 者	0人、報道0社
担 当 課 及 び 連 絡 先	長寿福祉課 087-839-2346 介護保険課 087-839-2326 地域包括支援センター 087-839-2811

審議経過及び審議結果

会議を開会し、次の議題について協議し、下記の結果となった。
次のとおり、会議を開催した。

1 開会

健康福祉局長挨拶

会議を公開とすることを確認

2 議題

(1) 第8期高松市高齢者保健福祉計画の進捗状況について（資料1，2）

事務局から説明

(2) 第9期高松市高齢者保健福祉計画策定に係る基礎調査の結果について（資料1，3）

事務局から説明

(3) 第9期高松市高齢者保健福祉計画の骨子（案）について（資料1）

事務局から説明

(4) その他

A 委員

〈議題(3)について〉

最近ではヤングケアラーや老老介護が問題になっており、介護のために仕事を辞めなければならない事態も発生していると思う。それによって経済的な面で困窮し、生活ができなくなる方も多く、社会問題となっているが、市としてヤングケアラーへの対応策は何かあるか。

また、介護用品の導入に対する支援を積極的に行っていただきたい。

事務局

〈議題(3)について〉

家族介護支援については、認知症施策の中で「認知症の人を支える家族のつどい『ひだまり』」というものを実施しており、実際に介護をしている家族の方が集まり、悩み事を共有したり、専門家からの意見を聞いて負担軽減を図るという事業をしている。また、本市内に「認知症カフェ」をいくつか設置しており、認知症の家族の方がカフェに来て地域の方々と触れ合える場となっている。

今回の国の指針では、ヤングケアラーに関する記載が加わり、家族介護支援を充実するよう示されているため、認知症施策においても充実させていきたい。

A 委員

〈議題(3)について〉

第9期計画の基本理念では、高齢者が「希望を持って」となっているが、一人一人それぞれの希望は異なる。ただ生きているだけではなく、幸福感をもって生きていけるようなシステムが必要だと思う。

B 委員

〈議題(2)(3)について〉

基本理念について、今回「生きがい」という言葉ではなく、「希望」という言葉を認知症基本法から抜粋したということだが、資料3のP1のアンケート調査結果において、「生きがいあり」と答えた人の割合を見ると、高齢者(65歳以上)が61.0%に対し、要介護認定者(65歳以上)は26.5%しかない。生きがいというのは、生きていて良かったと思えるようなことで、希望というのはその次のステップであり、元のとおりになる見通しがあったり、こうなったらいい、こうなってほしいと願うことだと思う。どのような考えのもと、基本理念の中に「希望」という文言を入れたのか教えてほしい。

事務局

〈議題(2)(3)について〉

認知症基本法の中に「希望」という言葉が出てきており、今後増加が

予測される認知症の方も含め、希望を持って生きていってほしいという思いでこの言葉を使っている。

また、今回の資料には載せられていないが、アンケート結果の自由意見のところにも、「将来のことがとても不安である」等の意見が複数あり、ぜひ希望を持って今後も長く元気に自分らしい生活を送ってほしいという思いで、このような基本理念としている。

B 委員

〈議題(2)(3)について〉

その思いは分かるが、「生きがいあり」と回答した割合が低いことに対し、「希望」という言葉を使うのは時期尚早のような気がしたため、何か具体的なビジョンがあるのかと思い質問した。

事務局

〈議題(2)(3)について〉

このアンケート調査は3年に1度行っており、高齢者においては前回調査時56.6%、今回が61.0%で、要介護認定者においては前回が24.5%、今回が26.5%とどちらも徐々に増えていることに加え、今回は特に認知症基本法の理念について、本市の高齢者福祉を考えるうえで欠かせないということを踏まえ、「希望」という文言を入れた。

B 委員

〈議題(3)について〉

資料1のP9について、高松市データヘルス計画と本計画がどのような連携をしているのか教えてほしい。

事務局

〈議題(3)について〉

両計画とも高松市総合計画が上位計画としてあり、その他にも高松市健康都市推進ビジョン等本計画と関連する様々な計画、また、国や県の計画との調和を図って進めていくこととしている。

C 委員

〈議題(3)について〉

施策のうち「介護保険サービスの充実」についてだが、実際に今、通所リハビリテーションに通っている高齢者で、それだけでは不十分なため、訪問リハビリテーションもするよう提案してもらったが、ケアマネジャーからは通所と訪問の併用はできないと言われた。理由がないと併用は難しいとのことだったが、家族の希望に沿った柔軟な介護サービスが受けられるようにしてほしい。

事務局

〈議題(3)について〉

訪問リハビリテーションと通所リハビリテーションそれぞれの役割がある。通所を利用しているから訪問を利用できないと考えているケース

があるかと思うが、介護保険課では国の指示に基づいて案内しており、同様のサービスが通所のみで担保されるようであれば、通所を優先することになる。ただし、通所だけでは不十分で、例えば日常生活動作を向上させるためのリハビリテーションが必要ということであれば、その旨をケアプランの中に組み込んで、訪問を利用することは可能である。ケアマネジャーに相談したうえで、ご不明な点があれば介護保険課に相談いただきたい。

C 委員

<議題(3)について>

施策のうち「外出支援の充実」について、現在ほとんどの高齢者の方は運転免許を返納し、公共交通機関を利用しているが、郊外の方はそれが難しいと思う。もう少し現実に合った策を考えて欲しいと思う。

事務局

<議題(3)について>

外出支援については、関係課と常に連携を図っており、会議での意見等を随時情報共有している。また、一部の地域において、地域福祉ネットワーク会議の中で、移動支援に困っている方がいることが課題としてあがっており、その解決策を検討したり、新たなサービスを生み出しているところもある。なかなか上手く進まない部分もあるが、移動支援に関するニーズは大きいので、こちらも力を入れていきたいと思っている。

D 委員

<議題(1)(2)について>

第8期計画の進捗状況について、資料1のP1の「地域包括ケアシステムの構築に対する市民満足度」が令和2年度は高かったが、その後減少傾向にある。高松市はとても先進的に様々な取組をしていると伺っているが、市民の満足度が低い理由についてどう考えているか。

また、アンケート結果を見ると、自分に合った介護予防について相談できる場がほしいという方や、高松市の認知症に関する取組を知らない方の割合が高くなっている。せっかく色々な事業をしているにも関わらず、住民の方々がそのことを知らず利用できないということで満足度が落ちているのではないかとも思った。ぜひ次期計画では普及啓発により力を入れて、せっかく積極的に取り組んでいる事業を住民の方々に周知できるような体制をとってほしいと思う。

事務局

<議題(1)(2)について>

地域包括ケアシステムの構築に対する市民満足度については、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた令和2年以降の調査結果ということもあり、人との接触を避けるため、事業への参加者数が制限されるなど、高齢者の社会参加の機会が減少したこと等が影響していると思われる。

さらに、これまで地域包括ケアシステムの構築に向けた取組について周知啓発もしていたところであったが、コロナの影響を受けて十分にできなくなったことなどが、市民の方々の満足度を低下させる１つの要因になっているのではないかと考えている。

次期計画においても、さらに気軽に相談できる場所等、周知啓発をしていきたいと思っている。

A 委員

〈議題(3)について〉

資料１のＰ１０の「３．地域包括ケアシステムを支える介護人材確保及び介護現場の生産性向上」について、「生産性向上」という文言を「質の向上」とすべきだと思う。

また、長寿福祉課が開催している講座等において、必ず終わりに参加者の方々に対し、「またお友達やお知り合いの方など色々な方に、今日の講座のことを伝えて広めていってください。」と一言付け加えると効果的だと思う。

事務局

〈議題(3)について〉

資料１のＰ１０については、今回国から出された指針の抜粋であり、参考資料として載せているものである。

E 委員

〈議題(3)について〉

国はこの「生産性向上」という用語を使っているが、高松市の計画では、効率化という意味で同じようであれば、別の用語に置き換えて構わないと思う。

3 閉会